

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) 国別研修モザンビーク「教員養成校における現職教員教授法改善」

(英文) Improving teaching methodology of IFPs

(2) 研修期間

令和元年9月23日～同年10月11日

(全体受け入れ期間：令和元年9月18日～同年10月16日)

(3) 研修員数 9人

(4) 国立大学法人 鳴門教育大学 研修コースリーダー 香西 武

2. 研修内容

案件目標：

プロジェクトで開発された初等算数・理科教育関連 IFP 教材を使い、IFP 学生の指導力向上のために IFP 及び附属小学校（教育実習校を含む）の授業改善及び近隣学校現場の教育改善のために必要な知識・技術への理解を深める。

成果：

- 1) 開発された IFP 教材の主旨を理解し、附属小学校教員にその改善のための方策を説明できるようになる。
- 2) 附属小学校における教育実習を通じた児童中心型授業展開のための IFP・附属小学校の連携方策を説明できる。
- 3) 附属小学校と近隣小学校（近隣教育実習校を含む）との連携方策を説明できるようになる。
- 4) 児童の学習習熟度把握のための方策について説明できる。
- 5) 新制度（6-3-3 制）移行にかかるカリキュラム及び IFP の課題を整理できる。

成果品：

- A. 開発された IFP 教材の解説パンフレット
- B. IFP・附属学校の共働方策案
- C. 近隣小学校（教育実習校を含む）強化のための研修方策案
- D. 初等理数科カリキュラムの課題整理表
- E. 児童の学力を把握するためのテスト例
- F. 新制度移行のための IFP カリキュラムの課題整理表

1. 案件目標（アウトカム）と成果（アウトプット）の達成度

(1) 案件目標（アウトカム）

案件目標：プロジェクトで開発された初等算数・理科教育関連 IFP 教材を使い、IFP 学生の指導力向上のために IFP 及び附属小学校（教育実習校を含む）の授業改善及び近隣学校現場の教育改善のために必要な知識・技術への理解を深める。

指標：研修員が本邦研修終了時に作成する資料、アクションプランが、活動可能で教育改善に寄与するレベルに達成しているか確認される。

(2) 単元目標 (成果)

単元目標①: 開発された IFP 教材の主旨を理解し、附属小学校教員にその改善のための方策を説明できるようになる。

指標: 研修員が理科・算数教育関連 IFP 教材に基づき作成した附属小学校教員へのパンフレットおよびその活用に関するアクションプランの記述から評価した。

単元目標②: 附属小学校における教育実習を通じた児童中心型授業展開のための IFP・附属小学校の連携方策を説明できる。

指標: 研修員が作成する IFP と附属小学校の連携方策案及びアクションプランの記述から評価した。

単元目標③: 附属小学校と近隣小学校（近隣教育実習校を含む）との連携方策を説明できるようになる。

指標: 研修員が研修中に作成した附属小学校と近隣小学校の連携方策及びアクションプランの記述から評価した。

単元目標④: 児童の学習習熟度把握のための方策について説明できる。

指標: 研修員が研修中に作成したテスト問題サンプルの記述から評価した。

単元目標⑤: 新制度 (6-3-3制) 移行にかかるカリキュラム及びIFPの課題を整理できる。

指標: 研修員が研修中に作成したカリキュラム課題整理の記述から評価した。